

## 高学年の居場所づくり ～たのしく通える高学年保育にしよう～

助言者：岡崎 勝（名古屋市教員：雑誌編集者）

世話人：仁城 奈美子（尾張旭市指導員）

今、授業時間数の増加や、塾・習い事通い、多すぎる宿題など多忙な生活を強いられている子どもが多くいます。同時に、学童保育が今まで以上に重要な居場所になっています。不登校やいじめ、学習の遅れ、「発達障害」などの問題を学童保育は子どもまるごと引き受けざるを得なくなっています。最近では家庭や地域のかかえる問題も、以前にも増して複雑になってきています。

とりわけ小学校の高学年は、思春期の前期に入り体も心も大きく変容します。子どもたちの自立を助け、自律性を育むために、「難しく面倒くさい」高学年とどう向き合ったらいいのか？そして、生活の格差や不安の中で、困惑している保護者や、多忙で疲弊している学校・教員たちとどうやって「協力」していけばいいのか？

さらに、私たち自身も一人の人間として「元気でいられるために」どうしたらいいのか？知恵を寄せ合いたいと思います。

### ○分科会の内容

#### 1、高学年の子どもたちの生活と育ち

- ・男子と女子のカオス。「かまってちゃん」から「うちら親友だもんね」まで。
- ・学校や教師への不満。「うるせー」から「くそばばあ」「あのおやじー」まで。
- ・身体と性。「シンデレラ体重ってムリー」「キモイ子」「先生！キモイー」
- ・「将来、なりたいもの？」「らくでもうかる仕事だな。とりあえずユーチューバ」
- ・今、やりたいことは？ 「朝寝坊です」
- ・・・など

#### 2、高学年とのつきあい方、保護者と学校をつなぐ

- ・異年齢集団で高学年にリーダーを期待したい。
- ・行事やイベントの組み立て方。「責任」ということのコエ方。
- ・学校への要求・要望・願い
- ・本当は……モンスターペアレントなんていないんじゃないの？
- ・自立・自律した主体性を育てたい→その場所の人間関係性はどうよ。
- ・「子どもになめられたらいかん」という先生や親たちは正しいのか？
- ・・・など

#### 3、グループ交流